

第3章 教育研究組織

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附属研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。

【評価の視点】

- 1：大学の理念・目的と学部(学科又は課程)構成及び研究科(研究科又は専攻)構成との適合性
- 2：大学の理念・目的と附置研究所・センター等の組織の適合性
- 3：教職課程等を置く場合における全学的な実施組織の適切性
- 4：教員研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取巻く国際的環境等への配慮
- 5：教育研究組織の観点から、COVID-19への対応・対策として、どのような措置を講じたか

《学部・研究科》

1) 本学は、「不断前進」の理念のもとに学是「仁」を大切にしながら、出身校、国籍、性による差別なく優秀な人材を求め活躍の機会を与えるという「三無主義」を学風として掲げ、「健康総合大学・大学院大学」として、「教育」「研究」「診療・実践」を柱に、グローバル社会における医療やスポーツ、人々の健康を支える人材の育成・輩出と国際レベルでの社会貢献に取り組んでいる。現在、7学部と3大学院研究科を設置している。学部として、医学部(入学定員138名)、スポーツ健康科学部(同600名)、医療看護学部(同220名)、保健看護学部(同130名)、国際教養学部(同240名)、保健医療学部(同240名)、医療科学部(同180名)を置き、大学院研究科として、医学研究科(同：修士課程60名、博士課程180名)、スポーツ健康科学研究科(同：博士前期課程61名、博士後期課程10名)、医療看護学研究科(同：博士前期課程29名、博士後期課程12名)を置いている。これらの教育研究組織は、大学の理念・目的を踏まえ、学問の動向、社会的要請、国際的環境に配慮し、「健康総合大学・大学院大学」に必要な教育研究組織として整備されている。

(大大評3-1 学校法人順天堂組織規則 別表第1 学校法人順天堂 組織機構図)

(大大評3-2 令和4年度 事業報告書

- 「1. 法人の設置する学校」、「2. 医学部附属病院」、
- 「3. 大学院附属研究センター及び大学附属研究センター」、
- 「4. 法人の設置する大学院・大学の入学定員、学生数等」)

(大学基礎データ 表1)

- 2) 2022(令和4)年4月に、千葉県浦安市に新キャンパス(浦安・日の出キャンパス)を開校した。教育研究組織の適切性の点検・評価を踏まえ、3期に分けて新学部を開設していく計画が進行している。質の高い医療が求められる中で必要となる医療人材(臨床検査技師、臨床工学士、薬剤師)や現代社会で不足しているデータサイエンスに係る専門人材を養成していく。第Ⅰ期(2022(令和4)年度)には、第7番目の学部として、医療科学部(臨床検査学科・臨床工学科)を開設した。第Ⅱ期(2023(令和5)年度)には、ITやAIを駆使した医療をはじめとする膨大なデータを扱う専門家を養成する健康データサイエンス学部開設を予定している。本学が得意とする医療、スポーツ、健康領域のビッグデータを利活用し、同領域の技術革新や発展に貢献することも目指している。第Ⅲ期(2024(令和6)年度)には薬学部(仮称)開設を計画している。
- 3) 大学院においては、本郷・お茶の水キャンパスに、2023(令和5)年度、保健医療学部を基礎とする大学院保健医療学研究科(修士課程)、2024(令和6)年度、国際教養学部を基礎とする大学院国際教養学研究科(修士課程)(仮称)の開設を計画している。
- 4) 各学部では、教授会が教育研究に関する運営全般をマネジメントしており、下部組織として、教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会、教員人事委員会等、各種委員

第3章 教育研究組織

会を置いている。

(大大評3-3 順天堂ニュース 「2022年 No.2283 7月1日号」 委員会一覧)

- 5) 大学院各研究科では、研究科委員会が教育研究に関する運営全般をマネジメントしており、医学研究科及びスポーツ健康科学研究科では、下部組織として、検討委員会、教員人事委員会等の各種委員会を置いている。医療看護学研究科では、適宜ワーキンググループ等を編成しながら、研究科委員会で教育研究に関する検討・審議を行っている。

(大大評3-3 順天堂ニュース 「2022年 No.2283 7月1日号」 委員会一覧)

- 6) 上記の他、学部・研究科の教育研究を支えるとともに、大学の理念・目的を実現するための組織として、研究センター・研究所、医学部附属病院群を次のとおり設置している。

《研究センター・研究所》

- 7) 研究分野横断的な共同研究を推進し、その成果を学部・大学院教育及び社会に還元するため、大学院研究科にアトピー疾患研究センター、疾患モデル研究センター、老人性疾患病態・治療研究センター、環境医学研究所、研究基盤センター、スポーツ健康医科学研究所、スポーツロジーセンター、先導的がん医療開発研究センター、ゲノム・再生医療センター、女性スポーツ研究センター、静岡災害医学研究センター、難病の診断と治療研究センター、ジェロントロジー研究センター、脳血管内治療学研究センター、AI インキュベーションファームを設置している。これらの研究組織では、学問の動向、社会的要請、国際的環境に配慮し、特色ある研究活動が展開されている。

(大研戦3-1 研究施設の概要 2022)

(大研戦3-2 研究施設・センター)

《医学部附属病院群》

- 8) 医学に関する教育・研究の臨床の場であるとともに、その成果に基づく社会貢献の実践の場として、医学部に6つの附属病院(合計病床数3,559床)を置いている。総病床数は、日本最大規模を誇る。高度な最新医療を提供する都会型病院である本院機能を果たす順天堂医院及び高度な最新医療とともに地域医療に関する教育・研究を担当する静岡病院、浦安病院、順天堂越谷病院、順天堂東京江東高齢者医療センター、練馬病院で構成されている。卒前・卒後の学生や研修医等に対して、高度な最新医療から地域医療まで、更に精神医療及び高齢者医療を相互に連携・補完して学修することのできる教育研究病院として整備している。各附属病院の特色は次のとおりである。

- (1) 順天堂医院(東京都文京区、1,051床)は、特定機能病院として最新の高度な医療を患者さんへ提供するとともに、臨床研究中核病院の認証も取得し新薬や新たな医療技術の開発のために臨床研究や治験の実施、先進的医療の開発及び評価を実施している。それらの強みを教育研修機関として活かしつつ、地域がん診療連携拠点病院、東京都周産期母子医療センター、東京都認知症疾患医療センター、東京都災害拠点病院、東京都小児がん診療病院、エイズ診療拠点病院、がんゲノム医療連携病院として機能を整備し、それぞれに専門的領域で臨床教育を実践している。

(大大評3-4 順天堂医院 パンフレット)

- (2) 静岡病院(静岡県伊豆の国市、602床)は、静岡県東部におけるドクターヘリ基地病院、三次救命救急センター、新生児センター、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、静岡県肝疾患診療連携拠点病院、静岡県アレルギー疾患医療拠点病院、災害拠点病院(静岡DMAT指定病院)、地域医療支援病院、臨床研修指定病院、特定行為研修指定研修機関等の医療体制を整備している。これらの特色から救急医療・周産期医療・災害医療・地域医療に関する臨床教育・研究を担当している。

第3章 教育研究組織

(大大評3-5 静岡病院 パンフレット)

- (3) 浦安病院(千葉県浦安市、785床)は、千葉県における三次救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、地域災害拠点病院(DMAT 指定医療機関)、エイズ治療拠点病院、全県(複数圏域)対応型脳卒中・急性心筋梗塞連携拠点病院、アレルギー疾患地域基幹病院、地域周産期母子医療センター、臨床研修指定病院、難病医療協力病院、東葛南部地域難病相談・支援センター、特定不妊治療実施医療機関、地域医療支援病院、新型コロナウイルス感染症重点医療機関などの診療体制の特色から、高度な医療を提供するとともに地域医療に関する臨床教育・研究を担当している。

(大大評3-6 浦安病院 パンフレット)

- (4) 順天堂越谷病院(埼玉県越谷市、226床)は、精神疾患を中心に診療している医療機関であり、埼玉県東部地域の精神科中核病院として、精神科救急医療事業へ参画し、機能的な精神障害及び器質性精神障害の治療に当たっている。開放病棟で、精神科の急性期治療病棟を運用していることが特徴であり、クロザピン、電気痙攣療法、精神科デイケア、ショートケア、作業療法等の精神医療を行っている。これらの特色を生かし、地域医療、看護学、薬学、栄養学、ソーシャルワーク等に関する臨床教育・研究を行っている。また、一般診療科においては、内科・脳神経内科・皮膚科・整形外科の診療体制を整備し、入院患者の身体合併症への対応及び膠原病・リウマチ、パーキンソン病等、難病疾患の治療を重点的に進めている。

(大大評3-7 順天堂越谷病院 パンフレット)

- (5) 順天堂東京江東高齢者医療センター(東京都江東区、404床[一般275床、精神(認知症)129床])は、小児科及び産科を除いた診療科において、救急医療を含めた急性期医療を実践している。高齢者に多い疾患の診断と治療を研究・実践し、高齢者の健康増進・生活の質の向上を図ることを目的としている。一番の特色として、3つの精神病棟を設置し、地域機関での対応が困難な認知症高齢者への専門的医療を提供するとともに、「リハビリテーション医療」に力を入れている。これらの特色を生かし、内科系及び精神病棟の医療を中心に、高齢者医療に関する臨床教育・研修を行っている。

(大大評3-8 順天堂東京江東高齢者医療センター パンフレット)

- (6) 練馬病院(東京都練馬区、490床)は、練馬区の重点施策である救急、小児・周産期、がん医療を中心とした最先端医療を担う地域医療支援病院である。卒前・卒後教育においては、学生実習と臨床研修を積極的に実施し、教育機会を提供している。従来の災害拠点病院、東京都がん診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院としての役割に加え、2022(令和4)年4月には今までの周産期連携病院から、より高度な医療を提供する地域周産期母子医療センターの指定を受けた。また、2022(令和4)年10月からの試行期間を経て、2023(令和5)年3月には東京都救命救急センター(3次救急)に認定された。大学病院としての診療機能の向上と高度な専門領域の臨床教育を進めている。

(大大評3-9 練馬病院 パンフレット)

- 9) 医学部附属病院群は、医学部以外の学部・研究科においても主たる実習施設としての機能も果たしている。医療看護学部及び保健看護学部では、各種実習が円滑に行われるよう、各附属病院の看護部長をはじめ看護スタッフが教員として参画する実習説明会及び実習指導者研修会を毎年開催し、学部と一体となった指導が行われている。実習委員長が、附属6病院看護部門責任者会に出席し、実習施設と学部との連携を図っている。
- 10) 保健医療学部では、高い資質を持つ理学療法士・診療放射線技師を養成するため、医学部附属病院と連携し1年次より臨床実習科目の設定や病院見学を実施している。各種実習が円滑

第3章 教育研究組織

に進行するよう各附属病院の実習担当者と実習説明会を開催する等、学部・病院が一体となった指導環境を整えている。

- 11) 医療科学部では、臨床検査学科の臨地実習及び臨床工学科の臨床実習は、本学医学部各附属病院を中心に行う予定である。本学部臨地及び臨床実習担当教員は、附属病院臨床実習指導者と連携を密にし、実習学生に対しきめ細かい指導を行う計画である。
- 12) 大学院医学研究科では、医学部附属病院群において、学生の研究目的に沿った臨床研究や、専門医等申請資格要件を満たすための臨床的な指導等が実施されている。
- 13) 本学の臨床実習は、医療機関として相応しい外部評価を受けた医学部附属病院を中心に行っている。医学部附属病院が受審している外部評価は、(公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価であり、この認定に加え、特に本院の順天堂医院では、国際病院認証(JCI: Joint Commission International)による審査を受け、2015(平成27)年12月より継続して国際認証を取得している。

(大大評3-10 病院機能評価認定状況一覧)

≪教職課程等を置く場合における全学的な実施組織の適切性≫

- 14) 教職課程は、スポーツ健康科学部及び国際教養学部設置されており、全学的な教職課程運営組織として、「教職課程センター」を設け、教員養成を推進している。

(大大評3-11 順天堂大学教職課程センター管理運営規程)

≪教育研究組織の観点から講じたCOVID-19への対応・対策≫

- 15) 教育研究活動の質を維持し、円滑に行うための観点から、新型コロナウイルス感染症への対応として、授業については、2020(令和2)年度後期以降、感染状況を見極めながらオンライン授業と対面授業を併用して実施している。実習についても十分な感染対策のもとで行っている。「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応方針」を策定し、その都度内容の改訂を行い、全学生・教職員に周知徹底し、学生・教職員の安全・健康確保と感染拡大防止に努めている。
- 16) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う支援措置は、次のとおり実施した。

(1) 学費延納措置

新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変し、今後の修学が経済的理由により困難になった方に対する学費延納・分納措置を講じた。

(2) 各種修学支援制度や奨学金の申請手続きの支援

2020(令和2)年4月に新設された文部科学省「高等教育の修学支援新制度」をはじめとする、各種修学支援制度や奨学金の申請手続きを支援した。

(3) オンライン授業受講のための通信環境のサポート(2022(令和4)年3月末まで)や通信機器の貸与等の必要な措置を講じた。

以上のことから、本学は、理念・目的に則し、学問の動向、社会的要請、国際的環境に配慮して、「健康総合大学・大学院大学」として必要な教育研究組織を整備している。学部・研究科に加えて、研究分野横断的な共同研究を推進する各種研究センター・研究所等を設置している。また、教育・研究の臨床の場として6つの医学部附属病院を設置し、学部・研究科と連携した教育研究組織を構築できている。本学は、社会のニーズに応じ、新学部設置、入学定員増等により、組織を拡充しており、教育研究組織は適切に設置できていると評価する。

点検・評価項目②：教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

第3章 教育研究組織

【評価の視点】

- 1：適切な根拠（資料、情報）に基づく教育研究組織の構成の定期的な点検・評価
 2：点検・評価結果に基づく改善・向上

1) 本学では、内部質保証の推進に必要な全学的な自己点検・評価を毎年度実施している。教育研究組織が理念・目的を実現するために適切に整備されているか、定期的に点検・評価を行い、その結果を基に改善・向上に向けて取り組んでいる。自己点検・評価運営委員会では、各部門で行った自己点検・評価を踏まえ、全学的な自己点検・評価を行っている。内部質保証推進委員会は、自己点検・評価を通して教育研究組織の適切性を把握し、その結果を学長に報告している。学長は、その報告を受け、改善を要する事項について指示を行うという仕組みが整備されている。

（大大評2-42 自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録_令和4年5月）

（大大評2-33 内部質保証推進委員会(R4-2)議事録_令和4年5月）

2) 教育研究組織の適切性は、各学部・研究科における教授会・研究科委員会とその下部組織である各種委員会でも、定期的な検証を行い、その結果を基にそれぞれ改善・向上に向けた取り組みが行われている。

（大大評3-12 各学部・研究科における教育研究組織の適切性の検証及び改善・向上に向けた取り組み）

3) 教育研究組織の新設・改編の手続きとして、教授会・研究科委員会で審議した結果を受け、大学協議会・大学院委員会にて、全学的な観点からその適切性・必要性について審議しており、その最終的な判断は、理事会にて行っている。

4) 前回の(公財)大学基準協会の大学評価（2016(平成28)年度）以降、本学では、教育研究組織の適切性の点検・評価を踏まえて、次のとおり、入学定員増や学部・研究科の新設により、「健康総合大学・大学院大学」として組織の拡充を図っている（進行中の計画も含む）。

《入学定員増》

医学部では、これまで段階的に入学定員の増員を行っており、2021(令和3)年度に政府の「経済財政運営と改革の基本方針2018（平成30年6月15日閣議決定）」を踏まえた増員計画を文部科学省へ申請して認可され、この臨時定員（33名分）が2022(令和4)年度で終了となった。政府の「経済財政運営と改革の基本方針2019（令和元年6月21日閣議決定）」を踏まえた地域の医師確保等の観点からの医学部入学定員の増加について、2022(令和4)年度に文部科学省へ35名の増員申請を行い認可されたことから、2023(令和5)年度の医学部入学定員は140名となった。入学定員増に伴う医学部の入学定員数の推移は次のとおりである。

| | |
|--------------------|--------------------|
| 平成21年度定員 105名→110名 | 平成29年度定員 130名→137名 |
| 平成22年度定員 110名→119名 | 平成30年度定員 137名→140名 |
| 平成23年度定員 119名→120名 | 平成31/令和元年度定員 140名 |
| 平成24年度定員 120名→121名 | 令和2年度定員 140名→135名 |
| 平成25年度定員 121名→124名 | 令和3年度定員 135名→136名 |
| 平成26年度定員 124名 | 令和4年度定員 136名→138名 |
| 平成27年度定員 124名→127名 | 令和5年度定員 138名→140名 |
| 平成28年度定員 127名→130名 | |

医学部以外の教育研究組織の入学定員増は以下のとおりである。社会的要請や国際的環境に配慮し、入学定員を大きく上回る志願者を集められている学部・研究科では、段階的に定員増を行っている。スポーツ健康科学部では、スポーツや健康・体力づくりへの関心が高ま

第3章 教育研究組織

り、入学定員を大きく上回る受験生を集めていたことから、本学での学修を生かし、社会貢献を目指す志願者の思いに応えるため、2度の定員増を経て、約2倍の定員規模への拡充を図った。同学部の2021(令和3)年度の定員増では、学科を再編(3学科から1学科6コース制)し、スポーツへの科学的視点を一つの教育課程にまとめ、スポーツの可能性を多角的に学ぶことができるように整備した。国際教養学部でも、入学定員を大きく上回る志願者を確保していたことから、同様に、志願者の思いに応えるため、2019(令和元)年度に定員を倍増した。

| 年度 | 学部・研究科 | 入学定員 |
|------------|----------------|-----------|
| 2017(平成29) | スポーツ健康科学部 | 330名→410名 |
| 2019(令和元) | 国際教養学部 | 120名→240名 |
| | 医学研究科修士課程 | 20名→30名 |
| | 医学研究科博士課程 | 140名→160名 |
| | 医療看護学研究科博士前期課程 | 15名→20名 |
| | 医療看護学研究科博士後期課程 | 7名→10名 |
| 2020(令和2) | 医学研究科修士課程 | 30名→40名 |
| | 医学研究科博士課程 | 160名→180名 |
| | 医療看護学研究科博士前期課程 | 20名→25名 |
| 2021(令和3) | スポーツ健康科学部 | 410名→600名 |
| | 医学研究科修士課程 | 40名→60名 |
| 2022(令和4) | 医療看護学部 | 200名→220名 |
| | 保健看護学部 | 120名→130名 |
| | 医療看護学研究科博士前期課程 | 25名→29名 |
| | 医療看護学研究科博士後期課程 | 10名→12名 |

《学部・研究科の新設》

2019(令和元)年度には、第6番目の学部「保健医療学部(理学療法学科(120名)、診療放射線学科(120名))」を本郷・お茶の水キャンパスに開設した。更に、2022(令和4)年度より、浦安市日の出地区(約40,000㎡)に保有する校地に5つ目のキャンパス「浦安・日の出キャンパス」を開校するとともに、Ⅲ期に分けて新学部を順次開設していく計画が進行中である。2022(令和4)年度には、第7番目の学部「医療科学部(臨床検査学科(110名)、臨床工学科(70名))」を開設した。2023(令和5)年度には、健康データサイエンス学部、2024(令和6)年度には、薬学部(仮称)を続けて開設する予定である。

| 年度 | 学部・研究科 | 学科・専攻 | 入学定員 |
|-----------|------------------|--------------|------|
| 2019(令和元) | 保健医療学部 | 理学療法学科 | 120名 |
| | | 診療放射線学科 | 120名 |
| 2022(令和4) | 医療科学部 | 臨床検査学科 | 110名 |
| | | 臨床工学科 | 70名 |
| 2023(令和5) | 健康データサイエンス学部 | 健康データサイエンス学科 | 100名 |
| | 保健医療学研究科修士課程 | 理学療法学専攻 | 5名 |
| 2024(令和6) | 薬学部(仮称) | 薬学科(仮称) | 180名 |
| | 国際教養学研究科修士課程(仮称) | 国際教養学専攻(仮称) | 5名 |

第3章 教育研究組織

(2) 長所・特色

《教育・研究組織の規模拡大》

1) 本学は「健康総合大学・大学院大学」として、「教育」「研究」「診療・実践」を柱に、グローバル社会における医療やスポーツ、人々の健康を支える人材の育成・輩出と国際レベルでの社会貢献に取り組み、7学部3研究科6附属病院を運営するまでに発展してきた。現在、「健康総合大学・大学院大学」として、更なる規模の拡充を図る計画が進行している。2022(令和4)年度から、第7番目の学部として、医療科学部(臨床検査学科・臨床工学科)を浦安・日の出キャンパスに開設した。同キャンパスには、2023(令和5)年度に、第8番目として健康データサイエンス学部を予定しており、更に2024(令和6)年度に9番目となる薬学部(仮称)も計画している。大学院においては、2023(令和5)年度に、保健医療学部を基礎として、本郷・お茶の水キャンパスに大学院保健医療学研究科(修士課程)を開設する予定である。更に、2024(令和6)年度に国際教養学部を基礎として大学院国際教養学研究科(仮称)を開設する予定である。

今後も、学問の動向、社会的要請、大学を取巻く国際的環境等へ配慮しながら、新たな学部・研究科設置や入学定員増の検討を進め、1万人規模の「健康総合大学・大学院大学」に発展させることを目標とし、更なる充実を図る。

《大学院医学研究科修士課程におけるコース・学位プログラム充実》

1) 大学院医学研究科医科学専攻(修士課程)では、大学院学則を改正して文部科学省に届出を行い、2022(令和4)年度から修士課程で授与する学位に修士(公衆衛生学)を追加した。この大学院学則の変更に併せて、修士課程のカリキュラムを、従来のコース制から学位プログラム化し、学位プログラム毎に修士(医科学)又は修士(公衆衛生学)の学位を授与することとした。また、2022(令和4)年10月から秋入学の外国人留学生を受け入れ、基本的には英語による授業・研究指導のみで学位取得が可能となるようカリキュラムを整備した。秋入学の実施により、修士課程では新たなプログラム(International Medical Sciences)を開講した。修士課程では同年10月時点において、7つの学位プログラム(展開医科学、International Medical Sciences、臨床遺伝学(遺伝カウンセリング)、データサイエンス、公衆衛生学・グローバルヘルス、クリニカル・トランスレーショナルサイエンス、ヘルスコミュニケーション)を開講し、下表の通り、学位プログラムに応じた学位を授与している。今後も、新設プログラムを含めた全てのプログラムで教育・研究活動が適切に行われるよう安定運用を図る。

| 修士課程 学位プログラム | 授与学位 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・展開医科学 ・International Medical Sciences [秋入学] ・臨床遺伝学(遺伝カウンセリング) ・データサイエンス | 修士(医科学) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学・グローバルヘルス ・クリニカル・トランスレーショナルサイエンス ・ヘルスコミュニケーション | 修士(公衆衛生学) |

《大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程における、日本語不可・英語可の留学生向け受入体制の整備・拡大》

1) 開講科目の一部を英語で受講できるよう、英語の授業資料を整備し、同科目では音声翻訳システムを導入した。また、海外在住の外国人受験生向けに住居を確保した。海外の協定校複数向けに英語版の大学院入試募集要項を配信し、広報活動を積極的に行った。今後も、留学生の獲得に注力するとともに充実を図っていく。

第3章 教育研究組織

《大学院医療看護学研究科における入学定員増及び英語コース整備》

1) 大学院医療看護学研究科では、段階的に定員増を図っており、2022(令和4)年度の博士前期課程の入学定員は29名(+4名)となった。博士後期課程(博士)も同様に12名(+2名)となった。今回の定員増は、看護界でグローバルに活躍できるリーダーを育成するためのものであり、博士前期課程に「グローバルナーシングコース」、博士後期課程に「グローバルナーシングリーダーシップコース」をJICA(独立行政法人国際協力機構)と連携して開設した。秋入学制度を活用する留学生対象のコースであり、本学の講師陣に加え、海外からも著名な講師を招聘し、講義は英語のみで行う予定である。このことは、国内看護系大学では初の試みとなる。今後も、留学生の獲得に注力するとともにコース内容の充実を図っていく。

(3) 問題点

《大学院スポーツ健康科学研究科におけるハイパフォーマンス科学に関する育成プログラム》

1) 本学が採択されたスポーツ庁提案型事業「先端的スポーツ医科学研究推進事業」の一環として、博士前期・後期課程それぞれにおいて、ハイパフォーマンス科学についての高度な専門性を要する業務/職業で活躍できる人材を育成することを目的とした育成プログラムの設置を、2024(令和6)年度に行う予定である。2023(令和5)年度内に同プログラムの詳細を固める必要がある。

(4) 全体まとめ

本学は、大学をとりまく環境変化や社会的要請に応じ、理念・人材養成目的を踏まえ、現在7学部・3研究科を設置している。1万人規模の「健康総合大学・大学院大学」に発展させることを目標とし、規模の拡充を図っている。2022(令和4)年4月には、5つ目のキャンパスとして、千葉県浦安市に「浦安・日の出キャンパス」を開校した。同キャンパスには、3期に分けて学部を開設していく計画が進行中である。第Ⅰ期として、2022(令和4)年度に医療科学部(臨床検査学科、臨床工学科)を開設した。第Ⅱ期として、2023(令和5)年度に健康データサイエンス学部、第Ⅲ期として、2024(令和6)年度に薬学部(仮称)の開設を計画している。大学院では、2023(令和5)年度に保健医療学研究科(修士課程)、2024(令和6)年度には国際教養学研究科(修士課程)(仮称)の開設を計画している。既存の組織についても、自己点検・評価、大学協議会、大学院委員会、教授会、研究科委員会等により定期的に検証を行い、入学定員増やコース増設等により組織の充実を図っており、本学の理念・目的を実現するための教育研究組織は整備されている。

第3章 教育研究組織

(5) 根拠資料

| 資料No. | 各部署の資料整理No. | 資料名称 |
|-------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 大大評3-1 | 学校法人順天堂組織規則 |
| 2 | 大大評3-2 | 令和4年度 事業報告書 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/ |
| 3 | 大大評3-3 | 順天堂ニュース 「2022年 No.2283 7月1日号」 委員会一覧 |
| 4 | 大研戦3-1 | 研究施設の概要 2022 |
| 5 | 大研戦3-2 | 研究施設・センター https://www.juntendo.ac.jp/research/organization/organization/ |
| 6 | 大大評3-4 | 順天堂医院 パンフレット |
| 7 | 大大評3-5 | 静岡病院 パンフレット |
| 8 | 大大評3-6 | 浦安病院 パンフレット |
| 9 | 大大評3-7 | 順天堂越谷病院 パンフレット |
| 10 | 大大評3-8 | 順天堂東京江東高齢者医療センター パンフレット |
| 11 | 大大評3-9 | 練馬病院 パンフレット |
| 12 | 大大評3-10 | 病院機能評価認定状況一覧 |
| 13 | 大大評3-11 | 順天堂大学教職課程センター管理運営規程 |
| 14 | 大大評2-42 | 自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録_令和4年5月 |
| 15 | 大大評2-33 | 内部質保証推進委員会(R4-2)議事録_令和4年5月 |
| 16 | 大大評3-12 | 各学部・研究科における教育研究組織の適切性の検証及び改善・向上に向けた取り組み |